

文で遊ぶ

4

立川と語ろう 立川に生きよう
April 2004
écoutez bien Vol.22 No.233



表紙の人／弓場重典(柴崎町)
写真／細江英公

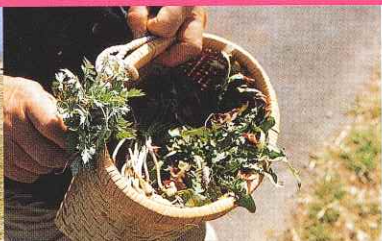
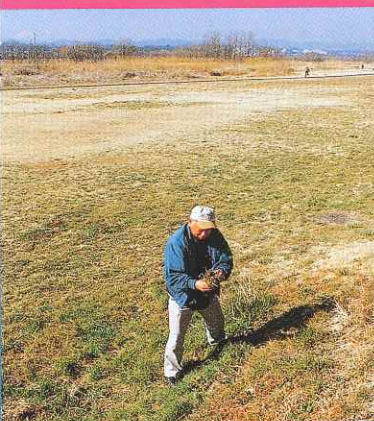


春、多摩川べりでは植物が次々と芽吹き始める。冬枯れの中から伸びてくる野草を摘んで食べる習慣は古くからある。その代表がヨモギやノビル、タンポポ、ソクシなどだ。富士丸町に往む川市文化財保護審議会委員、鈴木功さんの案内で、野草摘みに出かけた。

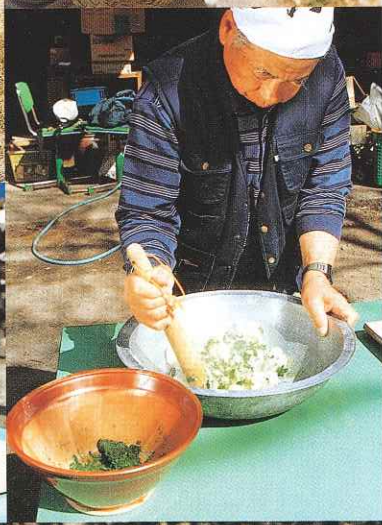
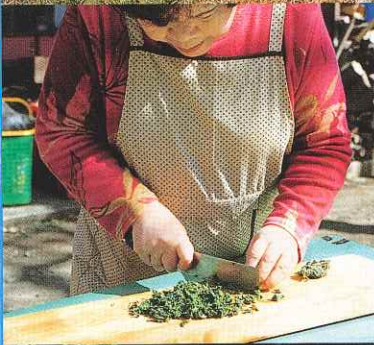
春の恵みをいただく

早春の川原で野草摘み

写真：五来孝平



ヨモギのほかにノビル、ギンギシ、タンポポなどが採れた



ゆででアク抜きし、ヨモギを刻むのは鈴木夫人(左)



春の香りの草大福、草団子

野草は多摩川べりのどこでも摘めるが、今回はJR中央線鉄橋西側の河川敷で。一見何もないような芝のあちこちに青みがかかったヨモギや黄色いタンポポの花が出ている。切出刀を使ってまだ小さく柔らかい若芽を摘んでいく。ノビルもあちこちにある。食べられる野草やアク抜きなどの調理法を知らない人が多くなり、草摘みも珍しい風景になったという。

鈴木さんのお宅で草団子を作っていた。摘んだヨモギをよく洗い塩と重曹を入れてゆでた後、水にさらしてアクを抜く。細かく刻んですり鉢で搗り、蒸籠で蒸した上新粉と白玉粉を混ぜた団子地につき込むと、緑も鮮やかな草団子の出来上がり。

ヨモギには胃腸を健康にしたり、もんで血止めになるなどの薬効があり、お灸のもぐさの原料にもなる、また生のままいぶして蚊遣りにしたり、農家にとっては実に役立つ植物だった。そうしたことを知らなくても、できたての草団子をほおばれば、口いっぱい春の香りが広がる。

一枚の地図から、世界が広がります。

山岳展望図、鳥瞰図を描き、研究する 藤本 一美さん



■藤本一美（ふじもと・かずみ）1947年鳥取県東伯町生まれ。明治大学卒業後、都立高校教諭として勤務し今年3月までの4年間は都立砂川高校に在籍、4月から都立保谷高校へ。埼玉県狭山市在住。直線探検登山や、展望図・鳥瞰図に取り組み地名・山ごと採集、山名考証、山村民俗、登山史、里山問題などを営む幅広い「山岳研究」を目指している。著書に『大東京パノラマ鳥瞰図』（1980年）、「展望の山旅」『続々展望の山旅』『続々展望の山旅』『車窓展望の山旅』（共編著4冊）シリーズとも実業之日本社）など多数。日本国際地図学会、全地研、都地研、地教研、日本砂丘学会、東京古地図倶楽部、日本山書の会、山村民俗の会、奥武蔵研究会会長。

■芳賀敏博（はが・としひこ）／えくてびあん編集人

於：曙町多摩てばこネット編集工房
写真：中村 伸

芳賀 藤本さんと知り合ったいきさつが、ちょっと恥ずかしいんですね。以前えくてびあんで「立川から見える山」という守屋龍男さんの連載をしたとき、雲取山の写真の位置が間違っていると指摘いただいた。これは僕のミスだったのですが、シリーズのほとんどの写真を撮った高島屋の屋上から雲取山は見えにくいんです。

藤本 モノレールの泉体育館とか高松駅のあたりだと見えるんですが、立川南駅から柴崎体育館駅のあたりまでくると鷹ノ巣山が前に来て見えなくなります。

芳賀 掲載した写真は玉川上水駅で撮ったのですが、位置関係が変わって分からなくなってしまいました。ご指摘いただいて冷や汗をかきましたよ。山座同定というのは

難しい。

藤本 極端な話、モノレール駅が一つ違うだけで全然別の山が見えてきますからね。ひとつの場所での見え方だけをあてにしてはだめなんです。厳密には5万分の一の地形図を使いますが、見える、見えないという推定なら20万分の一の地勢図で机の上でもできます。

芳賀 藤本さんは、山にも登られ、いろんな場所から山岳展望図を描かれ、著書もたくさんあります。鳥取県のお生まれだから最初の山というと、やっぱり伯耆大山ですよね。

藤本 鳥取には高校生までいましたが、山にはほとんど登っていないんです。中学校の遠足で大山に一泊二日で登ったのが初めてですね。長野県や山梨県の方たちもそう

でしょうが、地元の人間にとって山は眺めるものなんです。眺めて、雪の解け具合でそろそろ苗代の支度をしようとか田植えをしようとか。山登りを楽しむということはあまりないんです。

芳賀 じゃあ、山に登ったり展望図を描かれるようになったのはどういうきっかけで？

藤本 高校は工業高校で国鉄マンを目指していたんです。それが視力が悪くなってあきらめざるを得ず三年になって進路を変更しました。横浜の新聞販売店に住み込んで浪人生活することになったのですが、それを前にした卒業式後の打ち上げが温泉旅館であり、どういうわけか旅館に行かずに近くの鉢伏山という山に登ったんですね。眼下に広がる倉吉平野と日本海の景色は感動的でしたねえ。中学三年の時、志賀直哉の小説『暗夜行路』を読んで大山からの眺めの描写に心動かされたのですが、それに続くものでした。明治大学で地理を学ぶようになって貧乏学生ですから旅費のかかる山には登れません。地理実習というのが必須で、平野とか武蔵野台地、甲府の扇状地とかの地形や土地利用の調査・巡検はしていました。実際に登るようになったのは、やはり教員になってからです。絵も小さいころから描くのが好きで、教師になりたての頃から学校の屋上から見える山のスケッチをしていました。眺めて描いているだけで登ったことがないのは物足りない。負い目のようなものを感じて登るようになったんですね。地形図が学生の頃から頭に入っていますから一人でも山に登る自信がありました。地形図の枠に引いてあるタテの経線の通りまっすぐ登る直線探検とか、人のやらない山登りまで……（笑）

芳賀 地図だけでそんなにいろんなことがわかるものなんですか。

藤本 昔、寺田寅彦さんがコーヒーや紅茶一杯のお金で買える地形図の面白さについて書かれていますが、本当に見ていると

一日中楽しめますね。机上登山といって実際に登らずに地形図を読んで想像することがあるんですが、事前の想像と実際に登った結果を比べてみると登山が何倍も楽しい。慣れてくると地形図を見ただけで例えばここにカタクリが生えるだろうというようなことも予想がつかます。

芳賀 なんだか藤本さんにとっては、地理を学んだのも山岳展望図を描くのも、よくぞびつたりの分野に進まれたものだなあ。

藤本 教師の片手間にやっている趣味みたいなものですが、スケッチも好きで山登りも地図も好きという三拍子が揃ったからできたんでしょうね。赴任先の都立第四商業高校の屋上から見た山並みのスケッチを雑誌に発表したら、それを見て「私も同じことをやっている」と手紙をくれた人がいた。『展望の山旅』シリーズの共同執筆になる田代博さんとの出会いです。当時はまだ山にも登り始めた頃、鳥瞰図も描いてみようかという時期で、地理を学んだとはいえ、まさか自分がいろいろな展望図を描くことになるとは思ってもみませんでした。いろいろな要素が重なり合って今のような方向に定まってきた。思えば不思議ですね。

芳賀 そうそう、藤本さんにはもうひとつ、鳥になったように高い視点から見た鳥瞰図があります。自ら描くだけでなく、日本内外の鳥瞰図の蒐集家でもあるんですね。

藤本 1983年に丹沢に精通したある登山家のお宅で東京周辺を写した大きな航空写真が飾ってあるのを見ました。どうしてもお願いしてお借りして約4か月かけて描いたのが鳥瞰図として最初の「大東京パノラマ鳥瞰図」。高校卒業のときに鉢伏山から見た感動がよみがえったのかもしれないですね。描いているうちに、過去に鳥瞰図を描いてきた先人の作品にも興味が出て研究するようになり、蒐集も

始めたんです。特に大正末期から昭和半ばまで活躍した鳥瞰図絵師・吉田初三郎とその弟子たちの作品は好きです。

芳賀 初三郎とその弟子たちの鳥瞰図は、一枚の地図の中に実際には見えない富士山とかまで入ったユニークな構成と、なんともいえない遊び心がありますね。言ってみれば世界がそっくり入っている。ちょっとレトロな鳥瞰図の魅力とは？

藤本 例えば旅館やホテルがスポンサーだと、その建物が町の三分の一を占めるくらいに大きく描かれる。しかも立体的です。鉄道をたどっていくとそれこそアメリカまでも視野に入る。どんな名所や温泉があるか誰にでも分かりますし、煙を吐いて走る汽車や船、人、鹿とかの動物まで描き込まれていて、見ていて飽きないし、実際に行ったり泊まりたくなるんです。地図であると同時にコマースル。大変な才能ですね。しかも、ひとつひとつが初三郎とその弟子たちの手描きです。戦後の高度経済成長期あたりからカラー写真がふんだんに出回るようになって、彼らの鳥瞰図は忘れ去られてしまいましたが、こういう楽しさ、奥深さはカラー写真の観光チラシにはない世界です。

芳賀 一枚の地図を見たり山を眺めることに、心を豊かにするものが秘められている。

藤本 もともと江戸は富士山、丹沢や奥多摩の山々、筑波山、日光連山の男体山まで見える望岳都だったんです。都心からは見えにくくなってしまいましたが、立川からはまだまだ見える。モノレールに乗ればほとんどの場所から山が見えます。山を見て、地図で調べて、実際に登ってからまた眺めると、さらに新しい発見があります。実際に山に行けばそこに住む人や伝承、民話も深く知ることができる。結局、人間に興味があるから地図を見、山に登るのかもしれないですね。

- 手づくり味噌の材料専門店 北島こうじ店 錦町1-4-28 524-3190
- new gyoza1059 餃子天国 錦町1-5-6 526-2283
- 中国気功整体院 立川院 錦町1-5-22-1F 529-1088
- ステーキレストラン リブレ 錦町1-8-3 527-1630
- 和菓子処 ゆうき 錦町1-8-5 525-0780
- ザ・クレストホテル立川 錦町1-12-1 521-1111
- 美容室 アリス 錦町1-15-21 525-1100
- パンと洋菓子 うちのやブルマン 錦町1-18-7 524-9280
- 駄菓子・ファンシー むぎばたけ 錦町2-1-1 526-0210
- 海が見えるカフェ シーマンズ 錦町2-1-7-2F 523-7407
- 美容室 FALCO 錦町2-1-10 528-2389
- 諸官公庁御用達・日用雑貨 池田屋 錦町2-1-10 522-3731
- 手打ち 更科もとおか 錦町2-1-27 528-2345
- しゃぶしゃぶ・鍋料理 しゃぶりん 錦町2-1-33-3F 527-2228
- スペイン料理 TAPAS 錦町2-2-29 529-0733
- Bakery Cafe Crown 錦町2-4-2 526-2226
- 三田花店本店 錦町2-5-23 524-4187
- にしやま薬局 錦町2-7-8 525-9212
- (有)朝日屋酒店 錦町2-6-12 525-6333
- アミューたちかわ 錦町3-3-20 526-1311

えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります
今月は錦町・羽衣町・柴崎町のお店です。

- 多摩中央信用金庫 錦町支店 錦町3-6-9 528-0511
- そば処 高尾亭 錦町5-5-31 522-2710
- Natural Food Restaurant シェいなば 錦町5-19-9 529-5921
- レストラン ラ・ボボラリータ 錦町6-9-25 527-3880
- 高齢者総合施設 至誠ホーム 錦町6-28-15 527-0031
- 韓国居酒屋 木浦館 羽衣町1-18-1-1F 527-3006
- Cake Studio 35 羽衣町2-6-1 527-6808
- 林 歯 科 羽衣町2-7-10 522-5657
- 中島豆腐店 羽衣町2-12-34 522-5732
- フレッシュフルーツ 立川商店 羽衣町2-30-6 522-3565
- 本・事務用品 泰明堂 羽衣町2-31-1 522-3353
- 文具の ないとう 羽衣町2-33-1 522-3677
- 化粧品 OZAWA 羽衣町2-31-1 522-3749
- テーラー 安武 羽衣町2-33-11 522-4820
- 株式会社西友 西国立店 羽衣町2-40-1 524-5101
- 赤松タバコ店 羽衣町2-42 524-7852
- まごころ銘茶 狭山園 羽衣町2-45-1 527-0146
- 蕎麦処 かめ井 羽衣町3-2-17 524-8101
- パスタビーノ はしや 柴崎町2-1-6-B1 521-3386
- 明誠書房 柴崎町2-1-11 523-6700

写真：五来孝平

優勝の賞状と記念品



立川に トップ・ワインアドバイザーあり！

荻野博之さんのワイン道

2003年10月、「第5回ワインアドバイザー全国選手権大会」で優勝。全国6000人余のワインアドバイザーの頂点に立った。日本ソムリエ協会主催の選手権はブラインドテイスティング、口頭試問、接客試験と3つの関門を通らなければならない。勉強の日々の上に輝やく栄光を勝ち取った。



店内の試飲会でソムリエと
ワインアドバイザーのツーショット。



友人が開催した
「荻野さんの優勝を祝う会」。
誠実な人柄が人を集める。

「和飲(ワイン)学園」の生徒には速くから電車を乗り継いで来る人も。終始なごやかな雰囲気だ。



一人でも多くの人にワインの魅力を伝えたい。熱い思いが伝わってくる。



店に置かれているワインはフランス産が主流。産地を訪ねブドウを育てワインを醸す造り手の情熱に触れて、使命を感じた。お客様の好みに合った一本を、豊富な種類の中から選び出すお手伝いをしたい。ワインをもっと身近にたのしんでもらいたい。蔵元をまわり日本酒を勉強していた生活がワイン中心の生活に変わった。日本人の年間平均消費量3本のワインを、荻野さんは200本以上飲む。

富士見町で代々酒屋を営む家。荻野さんは6代目になる。町の酒屋さんがおしゃれ

な「エスポア おぎの」になった。荻野さんのユニークな発想から生まれた「和飲学園」では店内のテイスティングルームで「ワインをたのしむコツ」を教える。初心者とステップアップコースの2コースがあり基本から専門的なことまで指導、おまけに毎回6~8種類のテイスティング付き。定員の10席はいつも順番待ちの状況。夢は和飲学園卒業生と産地巡りをする事だ。「店内ワイン試飲会」や荻

野さんとレストランでワインを楽しむ「ワイン会」などもあり、ワイン普及の努力は尽きない。

酒屋だからプロもお客様になる。レストランのシェフやソムリエに友だちは多い。フランス料理激戦区に卸すワインは、他の店にない「ここだけのワイン」を考える。産地直輸入のワインを日本一のワインアドバイザーが選ぶ。最高の贅沢が、立川にはある。

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

多摩てばこ
ネット

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武蔵ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄

真如苑提供番組くじょうらくがじょう

スカパーブレイクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十八年

真如苑

柴崎町1-2-13 Tel. 527-0111(代)

SEIBU
西武信用金庫

幸町支店

〒190-0002 立川市幸町2丁目11番地34
tel.042-537-3101(代) fax.042-537-3648

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行なっている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社内で完結しています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL.527-1949 FAX.527-1949
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

「市民活動センターたちかわ」開設1周年

社会のために何かしてみたい！という思いをカタチにする場として開設された「市民活動センターたちかわ」が1周年を迎え、2月29日、記念イベントが富士見町の市総合福祉センターでおこなわれた。「みつけよう！ 幸せ・いきがい “春一番” マイライブ&マルチライブ」をサブタイトルに、NPOとは？ といった基本的なことから教えてくれるNPOガイダンス、市民活動の情報を紹介する市民活動コーナーや、具体的に活動を知ることができる座談会も。財団法人たんぼの理事長の播磨靖夫氏の記念講演会では、奈良県から始まり今や世界に広がる「わたぼうしムーブメント」「エ

イブル・アート・ムーブメント」など、障害を持つ人の「生きる場づくり」と「自己表現できる社会づくり」の運動を提唱、展開してきた播磨氏ならではの迫力あるお話に、メモをとりながら聞く人も多かった。講演会終了後はレストラン サラのおいしい手作りお菓子でちょっと一息。1周年にふさわしい充実した内容だった。



この人この店⑨

いろいろのギャラリー ティールーム 茶遊

オーナー 吉澤エミさん

柏小学校の西隣、住宅地の中に茶遊さんはあります。うっかりしていると「すてきなおうちね」と言われて通り過ぎてしまいそう。でも実は、知る人ぞ知る「ギャラリー」なのです。靴を脱いで中に入ると、冬は床暖房で暖かく、夏は高い天井に涼しい風が吹きます。「ひとつのことを続けてきた方が発表の場を探していらっしゃるんですね。作品を見てお茶やランチを召し上がって、いつのまにか出会いの場ともなっています」とオーナーの吉澤さん。布関係の作品展や絵画、パンフラワー、ビーズ、陶芸など幅広い企画が2週単位に入れ替わります。建物の造りが音響的にも良いと好評で、時にはコンサート会場にもなります。予約でいただけるランチは飲み物付きで1000円。季節の野菜を盛り込んだ吉澤さん手作りのおもてなしです。コーヒーはマイルドな風味のネパールコーヒー。くつろぎながらゆっくりと作品を見て、おいしいランチをいただく。ゆとりを全身で感じるギャラリーです。



〒190-0004 立川市柏町4-15-2
TEL 042-535-4900
営業時間 水・木・金・土11:00～17:00
作品展開催時は日曜日営業



ティールーム 一日中陽が差している



ランチ 季節の炊き込みご飯 煮物 和え物など6品

写真：五来孝平

たれゆえぐさ
タチカワ誰故草⑨

取り残される快樂

森 忠明

人生はつかのまのゲーム
まぼろしの賭けに 負けた時は――

南口の「カラオケ館」で荒木一郎氏の「ジャンヌを聴きながら」を歌い終え、ビールで喉を潤していると、娘（立川二中一年四組）が唐突にこう言った。

「日本一メンドクサガリのパパが、わたしの育児や養育を、よくここまでやれたね」

「育児はな、親の体がオートマチックに動いちゃって、ピンポンパンツヤ粉ミルクをルンルン気分で行くように出来てるんだ」

「ほお……」

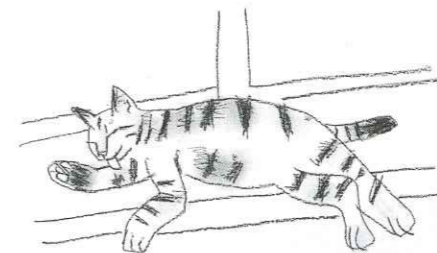
とか何とか娘は頷き、椎名林檎氏の御経のような曲を選択した。私はそのリモコン操作もメンドクサクて、今までに一度も自分でやったことはない。

帰宅すると、こんどは愚妻が脈絡無く、

「メカに弱い上に法規を破りがちなあなたが、廃車するまで三十年以上も無事故だったなんて、奇跡中の奇跡ね」

つまり、妻子による私の定義は「メンドクサガリでメカオンのアウトロー」ということらしい。

実際、インターネットを覗く時には、妻に使用料五百円、娘に検料五百円、計千円が必要。しかし全然みじめではない。私は幼児期から見だされたり取り残されることが嫌いではないのである。メカに弱いことなんか、あの稲垣足穂氏なら「利便だの賞点だの



挿画：野崎義成

を求め、何事にも習熟するのは俗物の骨頂だ」と喝破してくるだろうし、かのニーチェ氏なら「最新の学術や情報が人事の価値判断を目的にしているうちは真の認識には至らん。森くんみたいな周回遅れの洞察のほうがかげにマシじゃ」と、決定的に救済してくれらるだろう。

高校からの悪友で、コンピューター関連会社の社長をしている片岡智章は、「森が俗物や変態じゃないのは認めるけど、そりゃ裏返しヒロイズムだぜ」。さすがに鋭いツツコミを入れてきたが、いやなに、さほどに乙なものではなく、私のは単に先天的な無能体質が原因なのにすぎない。

私の唯一有能な点は、「忘れられる勇氣」（霜山徳爾氏）を持ってと教えられるずっと前から、その手の勇氣を知っていたことかも。

我が宿命らしい反時代的性情を、いささか哀れんだのは、この正月、神戸市北区の未見の少年から電話がきた日。

「森さんが十代で発表した『母捨記』をインターネットで読み、その詩が載っている『森忠明ハイティーン詩集』を一冊ほしいのです。僕の詩はサイトの現代詩フォーラムに――」

中田満帆君十九歳の、凛々しい声にうっとりしつつも、「メカを全く扱えないので、きみの詩は読めません。ごめんなさい」と頭をさげたら、彼は心底がっかりしたような、長い溜息をついたのだった。

表紙の人

弓場重典さん(柴崎町)

立川の心のふるさとともいうべき玄武山普濟寺ご住職。南北朝時代にさかのぼる郷党立河氏により創建、国宝六面石幢など数々の文化財でも知られ、江戸時代の「江戸名所図会」にもその賑わいが記される古刹が、不審火と見られる火災によって消失したのは1995年4月のこと。その再建に奔走し、檀家、地元関係者の協力によって本堂をはじめとする伽藍の偉容は日々整いつつある。若き住職が、古き伝統のうえに新たな歴史を刻む。

普濟寺にて 写真：細江英公

かたこと

春爛漫の桜を背にした普濟寺ご住職、弓場重典さんの表紙で、えくてびあん4月号をお届けします。火災による全焼という悲劇を乗り越えてご住職が尽力され再建された伽藍は、立川の新たな文化財と申せましょう▼梅の花に続いて雑木林の裸木の間にコブシの花が白い輝きを見せて、桜やレンギョウの花が咲きだすと、色彩が沸き立つような春です▼多摩川さんぽは鈴木功さんのご案内で野草摘み。今回は地図がありませんが、多摩川べりのあちこちに野草がみずみずしい緑を見せています。あたたかい陽射しの下、外歩きが楽しくなります▼立川の桜の名所といえば根川緑道や昭和記念公園、残堀川沿いなどが代表的ですが、近所の桜を訪ねてみるのもいいものです。<川の肖像>知久正義さんの作品に描かれた玉川上水やくこの人 この店>吉澤エミさんのお店「茶遊」の始め、新入学、新学期、新入社員など、胸膨らむ期待と新鮮さも4月ならではのもの。それも狭き門をくぐり抜ける努力あってのことなのでしょう▼<VIEW>にご登場いただいた荻野博之さんも難関を制して日本に6000人いるというワインアドバイザーの頂点に。立川の新たな誇りです。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン ウォーターデザインアソシエイツ 池田隆男
AMNET design factory
写真 五来孝平/中村伸

えくてびあん (C) 4月号

第22巻 通巻233号
平成16年4月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。





「玉川上水」

2003年 50S

今回は多摩川の本流を離れて、玉川上水の作品である。自宅に近い金比羅橋の新緑風景だ。冬枯れ時期の同じ場所の作品が現在、立川市女性総合センター・アイム5階に展示されている。芽吹きから本格的な若葉どきまでの短い季節は、木々にとっぴちばん活動的なときかもしれない。樹齢に反して、芽吹きはデリケートな色調を楽しませ、日々微妙な色もようの綾なしを、ゆったりとした水路の流れにも映し出してくれる。まだ繁りきらない葉を透かして見える枝の黒く伸びた線は、リズムカルに色彩の交響曲を奏でる指揮棒のようでもある。